

Jリーグにおける育成の現状とこれから

The current state and the future of player's development in the J.League.

1K06B047

指導教員 主査 武藤泰明先生

大沢諒

副査 堀野博幸先生

【研究背景・目的】

筆者は日本のサッカー競技力向上を心から望んでおり、本研究を行うことでJリーグの各クラブが育成においてより良い成果を出すことができるようになる、それによりレベルの高い選手が数多くトップチームで活躍する、そしてその結果として日本のサッカー競技力が向上するという良い流れを作り出すことに少しでも貢献することができれば、という願いを込め本研究に取り組んだ。そのため、本研究の大目的としてJリーグ各クラブが積極的に育成に取り組むことができるよう、育成においてより成果を上げるためには何が必要かということをはっきりさせることを挙げた。またその前提として現在のJリーグ各クラブにおける育成の成果をはっきりさせることを中目標として設定し、研究を行った。

【研究手法】

本研究では2005～2009年の間にシーズンでもJリーグディヴィジョン1に所属したことのある24クラブを対象に研究を行った。中目的を達成するための調査手法としては今回対象とした24クラブの育成組織からトップチームへの昇格者人数、トップチームに所属する育成組織出身者数、育成組織出身選手の当クラブにおける活躍度合いを調査し、現在のJリーグ各クラブにおける育成の成果をはっきりさせた。また大目標を達成するための調査手法としては中目標を達成することで明らかになった現在Jリーグにおいて育成で成果を出しているクラブ（ガン

バ大阪、サンフレッチェ広島）に対してインターネット調査、強化部、育成部関係者へのヒアリング調査の2つの調査を行い、育成においてより成果を上げるためには何が必要かということをはっきりさせた。

【研究結果・考察】

Jリーグにおける育成の現状としては、リーグ全体としてはJリーグが2002年にJリーグアカデミーを立ち上げ、各クラブの育成を支援しているということもあり、2005年から2009年にかけて今回対象とした24クラブの育成組織出身選手数の合計が102人から143人に増加していることなど、Jリーグに育成が根付き始め、またその成果も現れているということがわかった。しかし、その一方でJリーグ各クラブにおける育成の成果の差が大きく、特にJリーグへの入会が遅いクラブはまだ育成への取り組みの成果が現れていないということがわかった。さらに、Jリーグに初年度より名を連ねているクラブの間にも大きな差があり、今後Jリーグ各クラブにおける育成のレベルの底上げが必要だということが明らかになった。また、その中でもガンバ大阪とサンフレッチェ広島の2つのクラブが他クラブから特出した育成成果を残しているということがわかった。

育成においてより成果を上げるために必要なこととしてはガンバ大阪とサンフレッチェ広島への調査により、良い指導者、良い環境、良い選手、人間形成という考え方、クラブの一貫した育成への取り組み、トップチームから育成組

織のチームまでの一貫したチームコンセプトの存在、という6つの要素が必要であるということがわかった。

今後Jリーグ各クラブの育成がより確実に成果を挙げ、そしてその結果として日本のサッカー競技力の向上へと寄与するためにはJリーグ各クラブがこの6つの要素をしっかりと踏まえながら育成に取り組むことが重要になると考えられる。